

地域に暮らす

U・S

私が考える地域とは、お互いの助け合い、いたわり合いであると考えます。一戸一戸の近隣の人たちが輪となり、協働で行うことが結束力を高め、溝掃除・地区懇親会・葬儀の手伝いなど太いきずなとなります。

しかし、直接的に私に関わることは、皆無に等しい。地区の会や行事など私の両親がすべてやってくれているからだ。

だから私が私自身の「地域に暮らす」とはどういうことかと考えました。幼少のころからの顔なじみの近所の人たちに、「今、どこで働いちょーかね？」と聞かれたとき、逃げるような態度をとるのではなく、「今、調子が落ち気味なので、作業所で働いてます。」と真実を話します。それだけで近所の人たちに、自分は障がい者だと一斉に知れ渡るかもしれない。だけどオープンにすることで恥だと思わないでいれば、対等に接してもらえます。

だから、近所の人に常に現状を知ってもらうこと、コミュニケーションをとっていること、これが地域に暮らす意義だと思います。

仕事ってなあに？

匿名

仕事は、働いてお金をもらうことだけでしょうか？

お金ももらうだけなら、ボランティアや家事は、仕事ではないのでしょうか？

また、私達は、仕事をして、お金をもらい、ぜいたくな生活をするために生きているのでしょうか？

生活や生きがいとは、仕事を含めた自分の生き方を選ぶことではないのでしょうか？

私達障がい者は、お金の不自由して、どうしてもお金を稼ぐことに重点を置きがちですが、それで満足できる一生を得ることは出来ないと思います。

私は、週に一日だけバイトをして、あとは、地域の当事者会のお世話をしたり、県の当事者連絡会の役員をさせてもらっています。

当事者連絡会の役員は、皆、ボランティアで活動をしています。この仕事も精神的にきつい時が、たくさんあります。それを何とかやりきることで、満足感や充実感を得ています。

中には、役員をすることで成長して、一般に言われる仕事につく人もいます。お金を得る仕事と、ボランティアを両立させて、生活している人もたくさんいます。

私達障がい者は、就労をしても長続きしなして、つらい思いを経験する人も多いです。

いろいろ書きましたが、各自、生活すること、生きがいを得ることは、大変難しいと思います。自分に合った生き方を得るようにしていきたいものです。

シルバーリボン運動へのご協力

精神保健福祉や精神科医療の発展、脳や心に起因する疾患（しょう害）を抱える当事者の人権擁護につながるアプローチをする運動です。銀色のリボンのバッジをつけていただき、精神病への理解を求めています。ご協力お願いいたします。

無題

匿名

自分はピアサポーターをやっていますが、3年近く前に養成講座で精神科医師の講義を受けましたが、その後、某精神科専門の病院へ通院していて、院長先生に診ていただいていたのですが、自分が「結局、よくわかっていないんですね？」と尋ねると院長先生が「うん・・・そうだね。」と答えます。

精神分析学の創始者にジークムント・フロイトがありますがフロイトはイマニュエル・カントに学んでいます。そしてカントの不可知論（Agnosticism）に基づいて、精神医学を体系化しています。ですからフロイトの精神医学体系は科学的体系ではなくて哲学的体系だといわれています。ただ精神医学の歴史でフロイトだけが精神医学を体系化しています。ですから精神医学の歴史でフロイトだけが精神医学者といっている存在です。

フロイトは当時の1900年頃のオーストリアという封建制度の色濃くのこる社会状況を踏まえて治療していったからあれだけの業績をのこせたといわれています。ですから人間の精神を扱う場合、人間の生理構造を理解しているのは当然のうえ、どうしても社会科学的能力が必要になってくるのです。

社会科学系の学問には政治学、経済学、社会学などがありますが、それらは社会の特殊な面を捉えたものですから、政治学、経済学、社会学の特殊性を理解しようと思ったら社会の一般性が理解できていないといけません。社会の一般性を理解しようと思ったら歴史学です。人類の社会が歴史的にどのように発展してきたのか理解できなければ人間の精神なんて理解できません。人間の精神は社会的に育ってゆくものだからです。

つれづれなるままに

ペンネーム しろうり

今から700年くらい昔、兼好法師（けんこうほうし）という人が書いた文章で、「徒然草」（つれづれぐさ）というものがあります。私は高校生の頃、この文章の原文と、今の時代の言葉にした現代語訳の2つが書いてあった文庫本に出会って以来、様々な現代語訳付きの「徒然草」を読んでいます。

「徒然草」には、様々な題材で文章が書かれていますが、私は、第123段の後半が、特に「なるほど」と、しみじみ思いながら読んでいます。

「人が生きてゆくために必要なものは、食べるもの、寒さをしのぐための着るもの、冷たい風や雨から身を守り、のどかにくらししていくための住む所と、病気になると苦しいので、医療と薬。この4つの事が不足するのを貧しいとする。この4つの事が十分あるのを良いとして、他の事を何かと欲しがるのは、ぜいたくではないだろうか？」という内容です。700年くらい前に、この文章が書かれた時と今・現在では状況がちがうので、ぜいたくを控える事はむずかしいですが、可能な限り実行して衣食住と医療・薬の4つには困らないくらしをしようと思います。

第9回 島根県精神当事者連絡会の総会のお知らせ

日時 6月1日（日） 13:00～15:00

場所 雲南市木次町下熊谷交流センター

内容 ・来賓挨拶 ・事務連絡

・擬似名刺交換ワークショップ

・スピークアウト（どなたでも参加できます）

※投稿原稿募集しております。日頃思っていることなど自由に投稿ください。